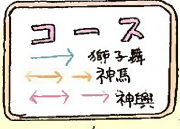


**布引海岸 (富津町)**

富津町の布引海岸には、弟橘媛の衣が流れつき、海岸近くの貴布祢神社に祀られている。海岸には弟橘媛の額布漂着碑がある。



**オマリ神事 9:20~9:30**

(富津駅前出発 8:15~)  
 オマリとは神前に供える神事で、神竹を一對に併せた中央に出世魚(イサガ)をつり下げ、香殿が神前に担ぎあげ、鳥居前では「オイブ、オイブ」のかけ声とともにおまりにおまらまの渡御で、腕を組みもみながら神前へおまらまの渡御。神輿に安置してある神輿にオマリを飾り、大徳神宮を参る。  
 (富津町指定無形民俗文化財)



**馬出し 14:00~15:30**

オメシと呼ばれる神馬の鞍に神籠である幣束をつけ、吾妻神社から岩瀬海岸まで、オメシの後を神輿が続き渡御する。  
 海岸では、二人の青年が馬の口を持ち、馬の両脇にしがみついて疾走する。神馬の疾走は1回、続いて番神馬の疾走が行われ、弟橘媛の衣が流れ着いたところで、幣束をおろし埋納し帰還する。引き続き、神輿が海岸で神輿と海に入る清めを行ったあと、還御する。  
 (千葉県指定無形民俗文化財)



**獅子舞 6:30~8:00**

雄雄の獅子が、朝神馬が吾妻神社に向かう前、宝嶽寺から吾妻神社まで、参道の穢れを祓い浄化する。道中、獅子頭を上げ下げし、前後へ移動しながら進む。拜殿ではお獅子を奏で、その後神入り口欄間横の獅子腰台に安置する。



**吾妻神社 (神輿)**

9:45 出発  
 20:30 安置

**神馬 吾妻神社**

9:00 鳥居先  
 9:15 石段駆け上る  
 9:18 祭典  
 9:20 お祓い  
 10:00 下山  
 16:35 帰山

**獅子頭安置 8:00~**

**走水から上総国へ**

ふるつふるつ  
**神話のまち布流津 (富津市の由来)**

**日本武尊と弟橘媛の軌跡をたどる**

**吾妻神社例大祭~馬出し祭~**

西大和田区(宮元)・絹区・中区・岩瀬区

**9月16日(日)**



**日本武尊と弟橘媛伝説**

古事記・日本書紀で伝えられる日本武尊が東征により東国(蝦夷)を大和国郡志の支那下にしたときのこと。  
 走水(三浦半島)から船出して上総国(房総)へ向かった日本武尊は、大風により難船しそうになった。おまらしていた妃の弟橘媛が日本武尊の身代わりには神の心を鎮めようとして入水し荒波を鎮め、無事日本武尊は上総国へ上陸した。その7日後に海神に身を奉げた弟橘媛の魂が岩瀬海岸に流れつき、どこからか一頭の馬が現れて橋をくわえ、走水の海が一層できる吾妻山の頂き(吾妻神社)まで揚げ上がったといわれている。  
 また、身につけていた衣が流れ着いた場所が富津町の布引海岸と伝えられる。

**問い合わせ**

富津市(市外局番 0439)  
 生涯学習課 ☎80-1342  
 秘書広報課 ☎80-1225  
 商工観光課 ☎80-1291

**ダンマリ神さま**

「ダンマリ神さま」と呼ばれる白旗神社の前では、お祭りの掛け声、笛や太鼓の音も静かに通り過ぎるとされている。その昔、嵐雨激しい中この地点でお祭りに気勢を上げたところ、大山が崩れ多数の犠牲者を出したのだが、それ以来ここを通過する際には、声を立てずに静かに通りすぎるそう。

**岩瀬橋 (神輿)**

14:00 (行き)  
 17:00 (帰り)

**神馬 岩瀬会館**

8:15 神社へ出発  
 12:15~13:50 休憩

**神馬渡御 18:30~20:30**

氏子たちが提灯で神輿を照らしながら神社へ向かう。石灯籠と神輿がライトアップされ、4区合同で神輿が神社を回り、安置される。

**元スタンド前 (神輿)**

18:30 仁義引き渡し 元スタンド  
 岩瀬→還御当番区  
 (輪番制による共同責任)